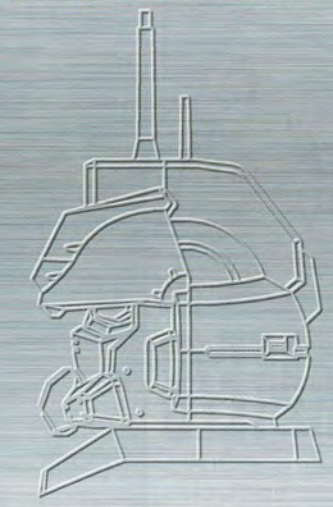




MOBILE SUIT
RX-79[G]Ez-8

GUNDAM Ez8

E.F.S.F. FIRST PRODUCTION
MOBILE SUIT CUSTOM TYPE



協力：ホビージャパン



地球連邦軍
先行量産型モビルスーツ(改装型)
RX-79(G)Ez-8「ガンダムイージーエイト」
1/100スケール マスターグレードモデル

GUNDAM Ez8

E.F.S.F. FIRST PRODUCTION MOBILE SUIT CUSTOM TYPE



地球連邦軍
先行量産型モビルスーツ(改装型)
RX-79(G)Ez-8「ガンダムイージーエイト」
1/100スケール
マスターグレードモデル

BANDAI 2000 MADE IN JAPAN



パーツリスト

Aパーツ
(スチロール樹脂：PS)

Bパーツ
(スチロール樹脂：PS)

Cパーツ
(スチロール樹脂：PS)

Dパーツ
(ABS樹脂：ABS)

Fパーツ
(スチロール樹脂：PS)

Gパーツ
(スチロール樹脂：PS)

Hパーツ
(スチロール樹脂：PS)

Iパーツ
(スチロール樹脂：PS)

Lパーツ
(スチロール樹脂：PS)

Mパーツ
(スチロール樹脂：PS)

X3パーツ
(スチロール樹脂：PS)

PC-122
(ポリエチレン：PE)

Kパーツ
(スチロール樹脂：PS)

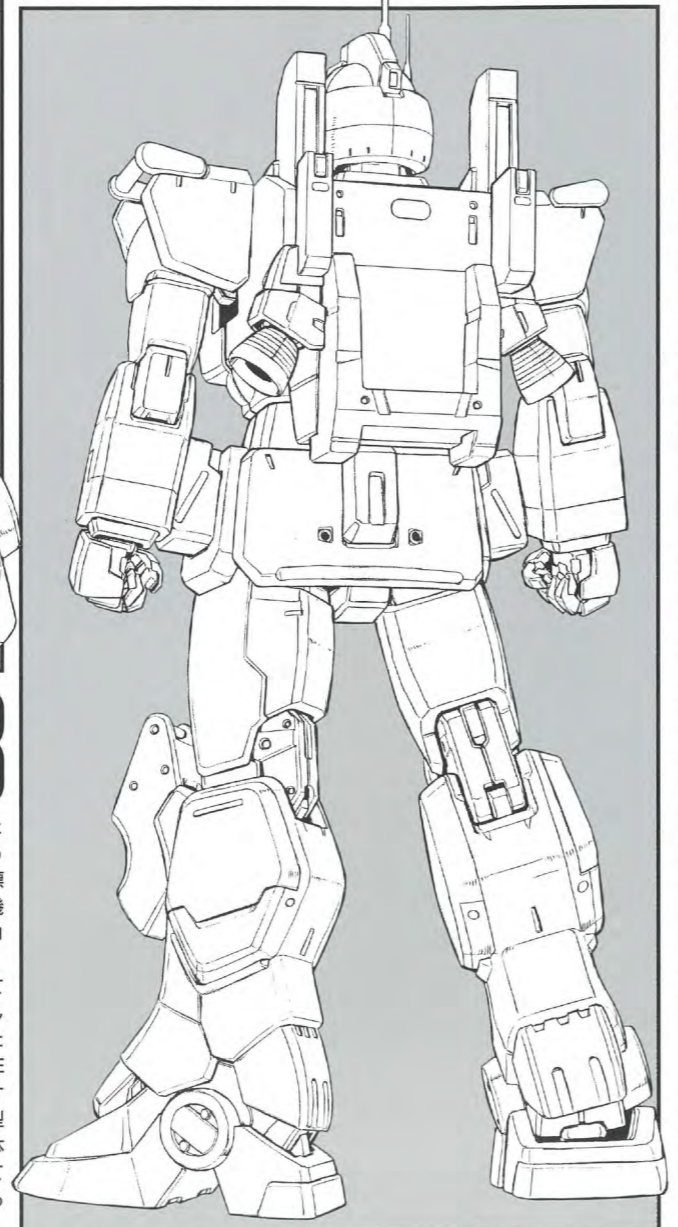
サーベル1パーツ
(SB1パーツ)
(スチロール樹脂：PS)

マニピュレーター1パーツ
(MP1パーツ)
(スチロール樹脂：PS)

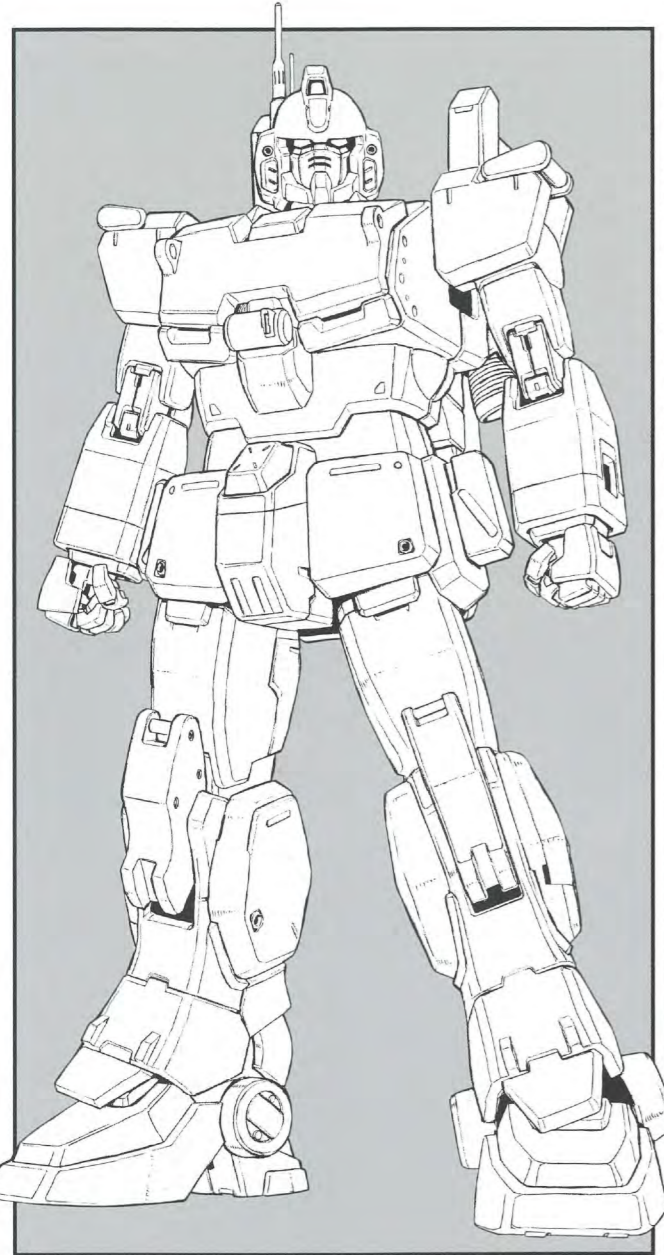
カラーシール………1
マーキングシール…1
ガンダムデカール…1
ビス………2
ナット………2
ビス座付………2

連邦軍の地上部隊においてオデッサ作戦以前にMS部隊が配属されたのは、公軍による地球降下作戦によって侵食された地域の周辺領域が多く、特に各種資源鉱床や工業設備、または支配地域の拡大が懸念される戦線などへ優先的に投入されている。

RX-79 (G) 陸戦型ガンダムの装甲や内装部品の多くは、プロトタイプであるRX-78ガンダムの予備パーツから流用、複製されているものが少なかったせいで、純正品のストックが充分ではなかった。そのため各基地では他の機体や装備などの部品を使って応急処置を施すことが多く、結果、カスタムタイプのガンダムやジムが各地で誕生することとなった。それはコジマ大隊においても例外ではなく、対アプサラス戦で大破した第08小隊の隊長シロー・アマダ少尉の機体もRGM-79 (G) ジムなどの部品を用いて、大幅な改装が試みられた。加えて、それまでの戦闘で得られたデータを元に、地上戦における戦闘力向上を図るべく、ほぼ差し替えられた武装などもある。まず、戦術的有効性に疑問のあった左胸部分のバルカン砲とマルチランチャーを廃し、12.7mm対歩兵用旋回式バルカン砲を新設。それに伴い胸部装甲形状も変更した結果、耐弾性が向上し、脚部の最終装甲の可動部分を減らすなどの軽量化による機動性の向上が図られた。ことに特徴的なのが頭部の構造変化で、いわゆる“ガンダム系”の代名詞でもあるブレードアンテナの代わりにロッドアンテナを装備。小口径のバルカンを2門追加し、下顎部分に独自のフェイスガード状の装甲を増設している。以後、改装されたアマダ少尉機はEz8 (EXTRA-ZERO-EIGHT=イージーエイト) と呼称される。



Conceptual illustration : Hajime-Katoki

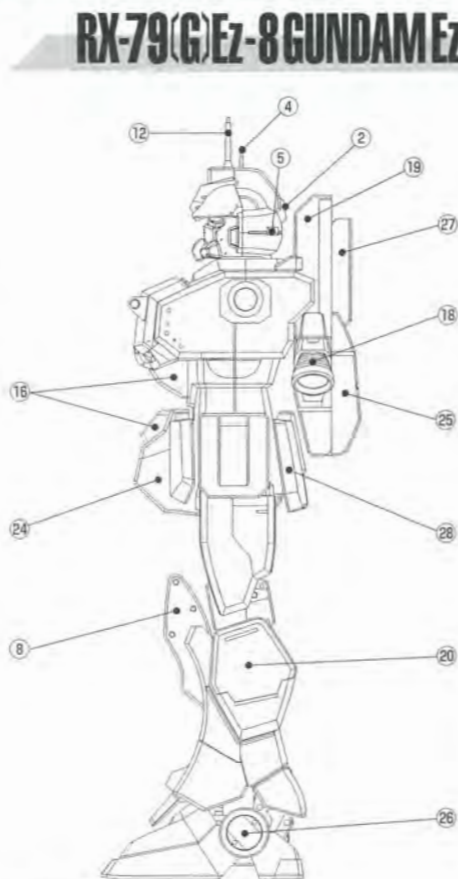
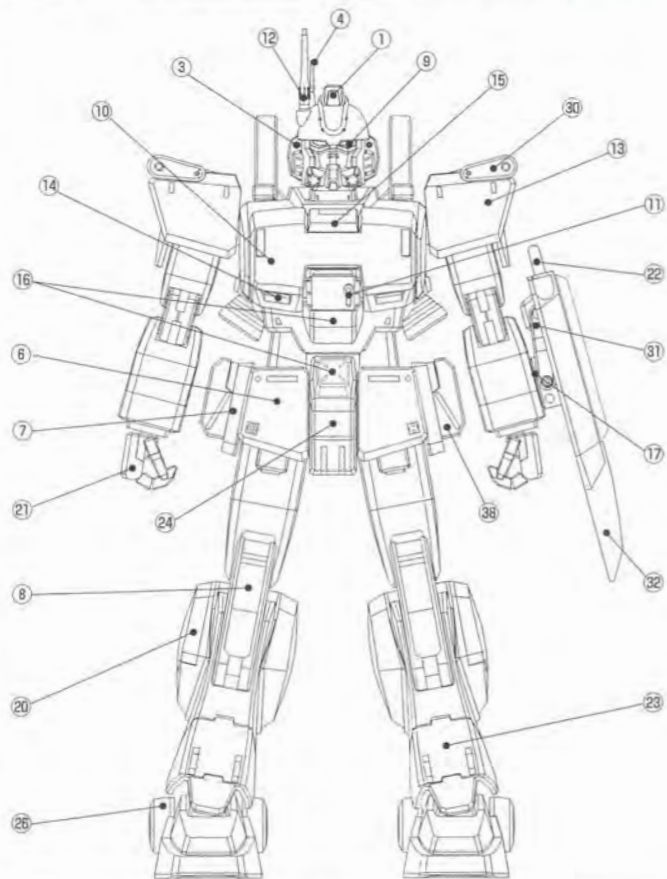


RX-79(G)Ez-8 GUNDAM Ez8

U.C.0079年。一年戦争が勃発して後、連邦軍はRX計画に連なるプロジェクトを統合する形で、本格的な高性能機と、その母艦との開発を並行して行う「V作戦」を立案、実行した。当初GMの量産計画はRX-78並のスペックを目標とするものだったが、戦況を鑑みて決定された調達機数の大幅増により、一機当たりのコストを極力絞った量産計画に変更された。それに基づき、いわばコストダウンされた機体がRGM-79ジムなのである。

RX-79 (G) いわゆる“陸戦型ガンダム”は、MS量産計画最初期において先行試作された内の一機である。この機体は、前年度から最強のMSを目指して開発が進められていたRX-78の実働データ回収以前に試験的に量産されたため、ある程度限定された環境でしか稼働できないRGM-79G/E (G=Groundtype/E=Economytype) をベースとしているものの、多様なオプションによりあらゆる戦闘に対応できるように設計されている。ことにG型は、当初から空間戦闘用の装備をオミットした設計が施されているため、機体は軽量化され、装甲材なども本格的な量産計画以前の材料が使用されており、少なくとも“重力下”におけるスペックはRX-78に匹敵すると言われるほど高性能な機体となっている。

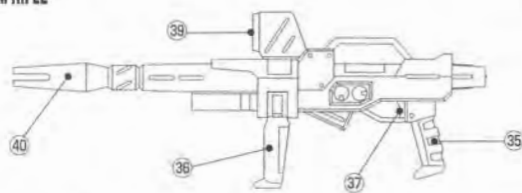
RX-79(G)Ez-8 GUNDAM Ez8



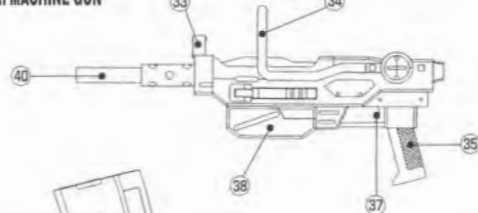
- | | | | | |
|-------------|---------------|---------------|---------------|----------|
| ①メインカメラ | ⑩チェストアーマー/ハッチ | ⑲ライト | ⑳リアアーマー | ㉟トリガー |
| ②リアカメラ/センサー | ⑪胸部12.7mmバルカン | ⑲サーベルラック | ㉠ダクト | ㉠マガジン |
| ③35mmマシンガン | ⑫マルチロッドアンテナ | ㉠マニピュレーター | ㉠スリングバー | ㉠ナロウセンサー |
| ④サブセンサー | ⑬ショルダーアーマー | ㉠キャリングハンドル | ㉠ジョイント/ヒポット | ㉠マズル |
| ⑤イジェクションポート | ⑭ダクト/インテーク | ㉠シールドフェーレル | ㉠アンクルアーマー | ㉠ビームサーベル |
| ⑥フロントアーマー | ⑮コックピットハッチ | ㉠ベンチレートボックス | ㉠サイトスコープ | |
| ⑦サイドアーマー | ⑯メンテナンスハッチ | ㉠フォークリフト | ㉠フォールディングストック | |
| ⑧ニージョイント | ⑰マウントラッチ | ㉠アンクルサポートユニット | ㉠グリップ | |
| ⑨デュアルセンサー | ⑱メインスラスタ | ㉠ホールドアーム | ㉠フォアグリップ | |

注) ガンダムイーゼーエイトは、U.C.0079年10月の時点で20数機が完成していたいわゆる陸戦型ガンダムの内、東南アジア方面軍機械化混成大隊(コジマ大隊)所属の第08小隊に配備された機体の現地改装型です。

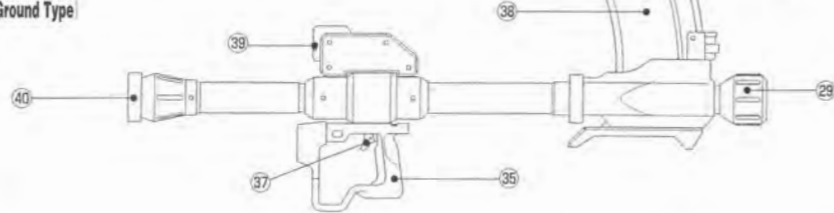
■ BEAM RIFLE



■ 100mm MACHINE GUN



■ Hyper Bazooka (Ground Type)



■ BEAM SABER



△ 注意

お買い上げのお客様へ 必ずお読みください。

- 本商品の対象年齢は15才以上です。対象年齢未満のお子様には絶対と与えないでください。
- 小さな部品がありますので、小さなお子様が悪く飲み込まないように注意してください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭からかぶったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 尖った部分や鋭い部分がありますので、取り扱いや保管場所に注意してください。思わぬケガをする恐れがあります。
- 接着剤は、閉めきった室内では使用しないでください。中毒になる危険があります。

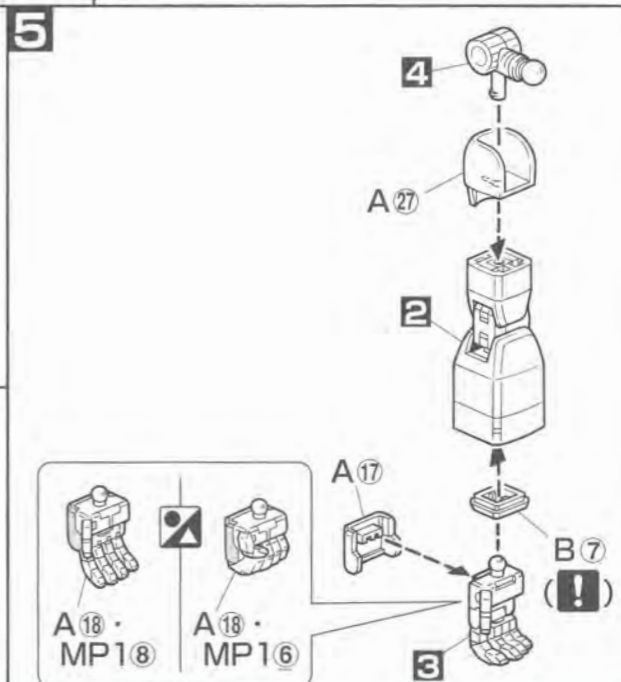
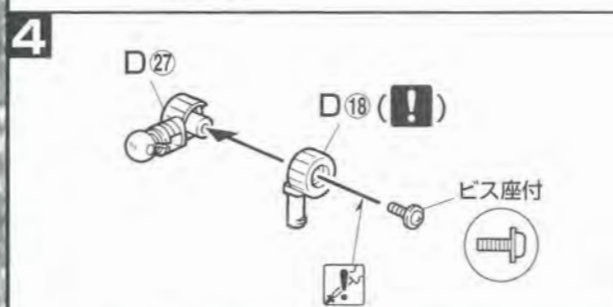
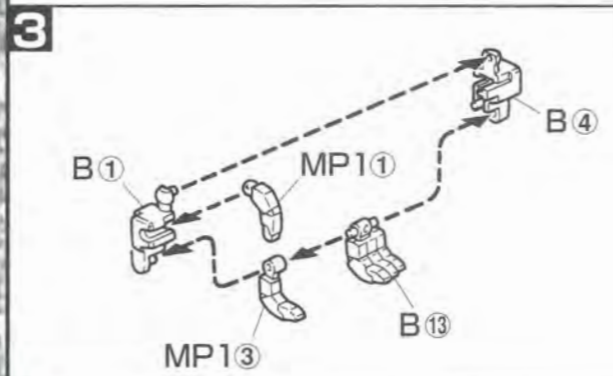
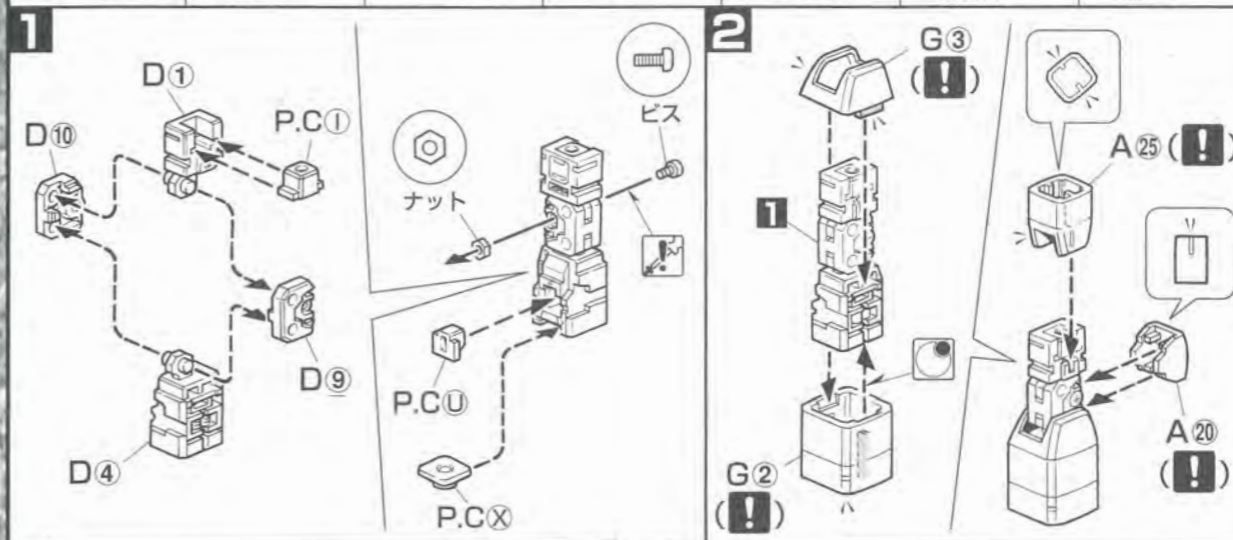
※このキットの組み立てには+ (プラス)ドライバーを必ず使いますので別にご用意ください。

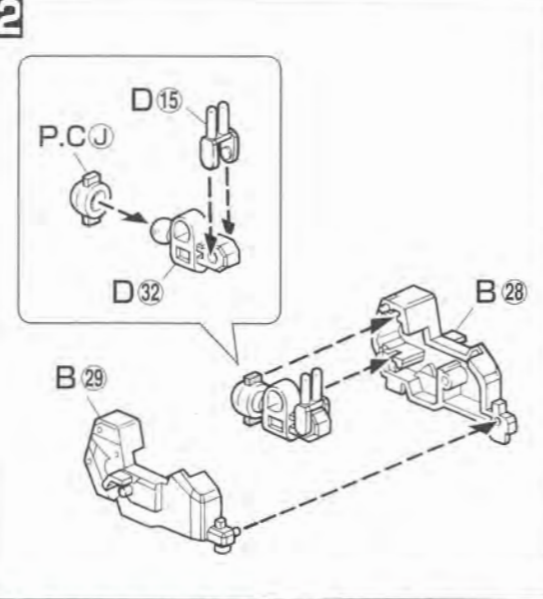
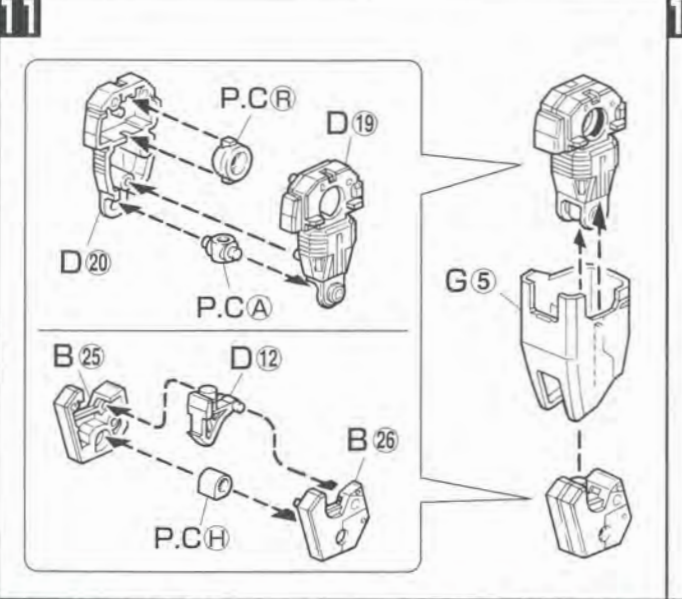
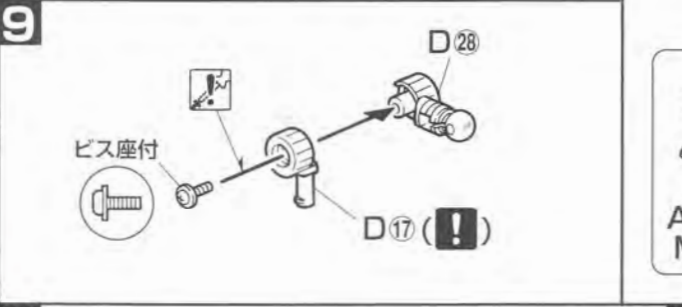
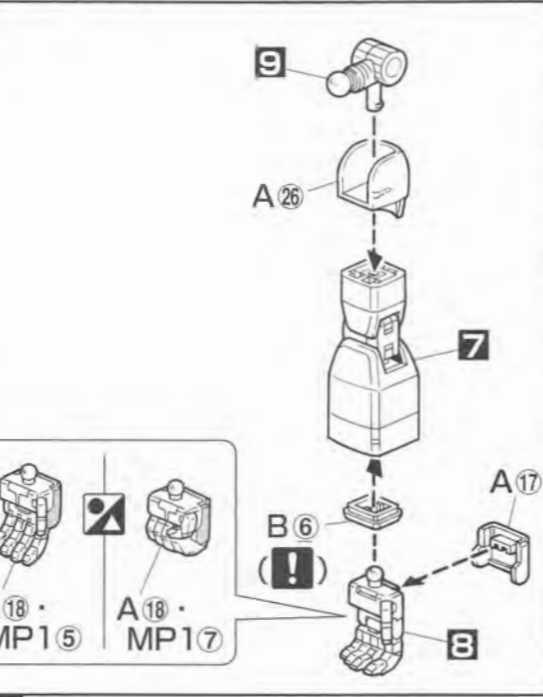
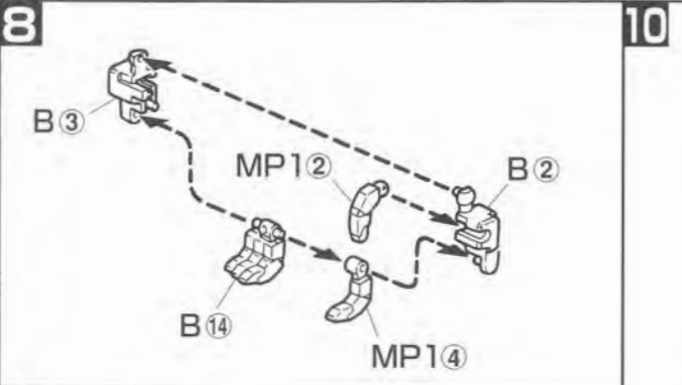
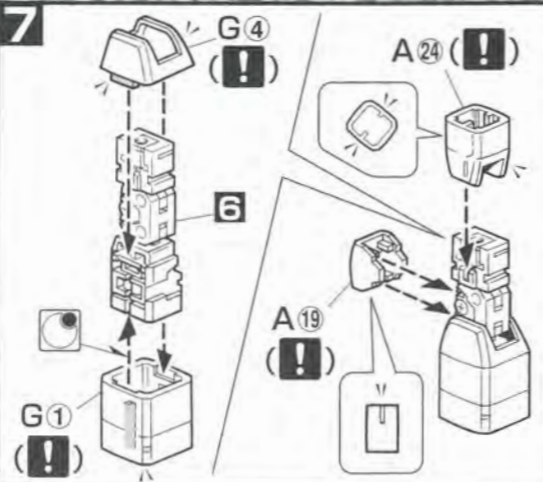
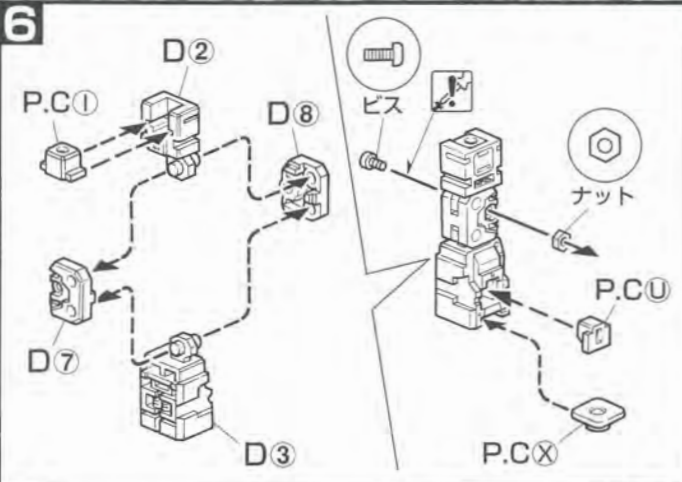
△ 組み立てる時の注意

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクズは捨ててください。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
- 尖った先端や薄い縁端部に触れながらの組み立てには十分ご注意ください。
- ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はおすすめできません。

このキットには、接着剤が入っておりません。プラスチックモデル専用接着剤を別にお買い求めください。

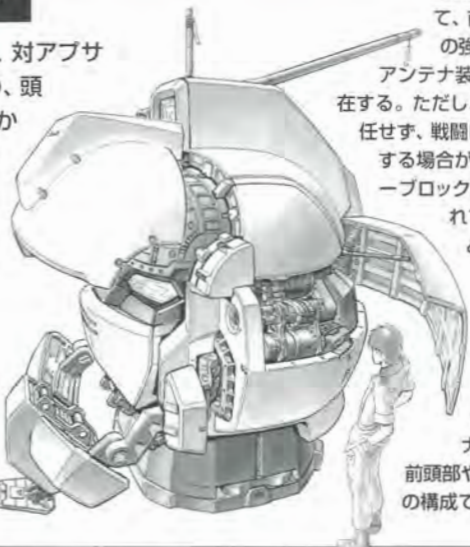
・接着をするところの線	・シールの番号	・デカールの番号	・反対側に取り付けるパーツ	・両側に同じパーツを取り付ける	・向きに注意して取り付ける	・ビスの締めすぎに注意
・切り取る線	・部品を数値の個数作ります	・先に組み立てます	・後に組み立てます	・数値に合わせて回転させます	・どちらかを選んで取り付ける	・反対側も同じように動かします





HEAD UNIT

RX-79(G) Ez-8の頭部は、対アブサラス戦において大破したものの、頭部全てを換装するほどでもなかったため、デュアルカメラ用のデバイスと基本フレーム以外のほとんどが現地調達で構成されている。

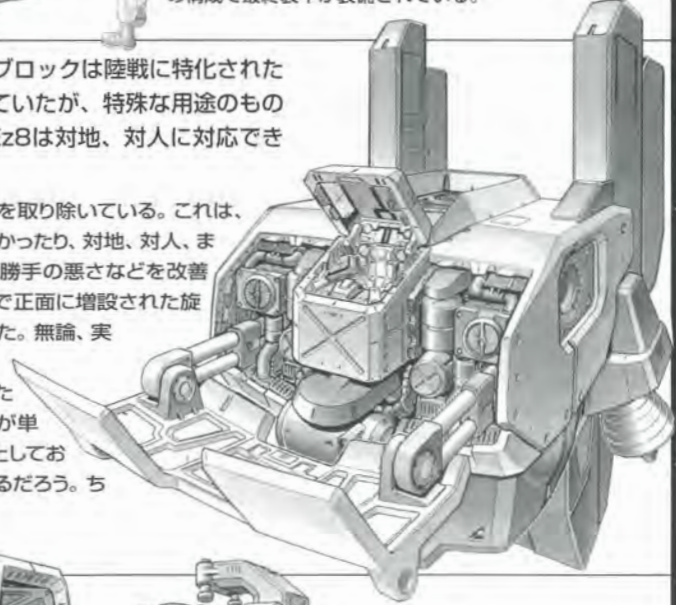


RX-79(G)の頭部は、78系の純正品も採用されていて、前線の要請に応える形で通信能力や近接戦闘能力の強化なども計られていた。頭部形状自体も、標準型、アンテナ装備型、バルカン装備型などのバリエーションが存在する。ただし、部品の交換や更新は補給などの問題から思うに任せず、戦闘による損耗などには、RGM系のもの流用で対処する場面が多かった。Ez8の頭部は、後頭部のコンピューターブロック以外のほとんどが仮設とも言える状態で再構成されており、アンテナなどは他の兵器や装備の流用品となっている。この時期、78系の部品調達は非常に困難で、それは79(G)用の部品も例外ではなかった。正規の79(G)の頭部には、陸戦に特化された機能が盛り込まれていたが、Ez8は逆に、陸戦用に特化された装備であるシュノーケルカメラなどを排除し、79(G)ではオミットされていた頭部バルカンなどを増設している。また、ルナチタニウム製の装甲材なども不足していたため、前頭部や頸周りの装甲などは、必要な強度を得るため独自の構成で最終装甲が装備されている。

COCKPIT

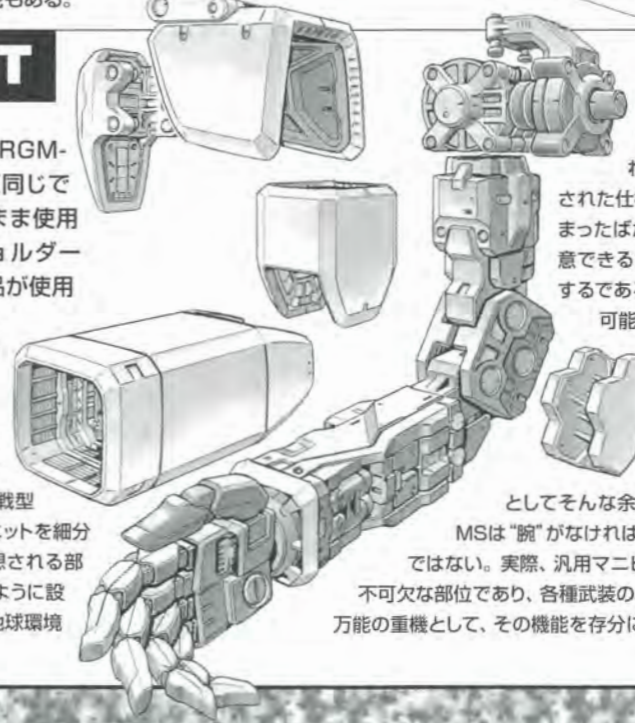
RX-79(G)の胸部ブロックは陸戦に特化されたコンセプトで設計されていたが、特殊な用途のものが多く、戦術的に活用が難しい武装もあったため、Ez8は対地、対人に対応できる武装と換装されている。

Ez8は、79(G)の特徴でもあった胸部の武装のほとんどを取り除いている。これは、胸部バルカンやマルチランチャーなどが俯角では使用しにくかったり、対地、対人、または威嚇兵器としては威力がありすぎるなど、戦術的な使い勝手の悪さを改善するための処置でもあったと言われている。特に、この改装で正面に増設された旋回式のバルカン砲は、威嚇や牽制などにも非常に有効であった。無論、実際には部品調達ができなかったという事情もあるが、搭乗者のシロー・アマダ少尉の希望を取り入れる形での改装であったことには変わらないようだ。ただし、胸のパネルなどの構造が単純になったことで、軽量化された上に整備性や耐弾性も向上しており、ある意味で、より実戦的な機体になったとも言えるだろう。ちなみに、胸部の装甲版は回収した敵MSのものを加工して作られたという説もある。



ARM UNIT

RX-79(G)の腕部は、RGM-79(G)のものと同じであるため、Ez8にもそのまま使用されている。ただし、ショルダーアーマーのみ78系の部品が使用されているため、独自にスリングバーが増設されている。

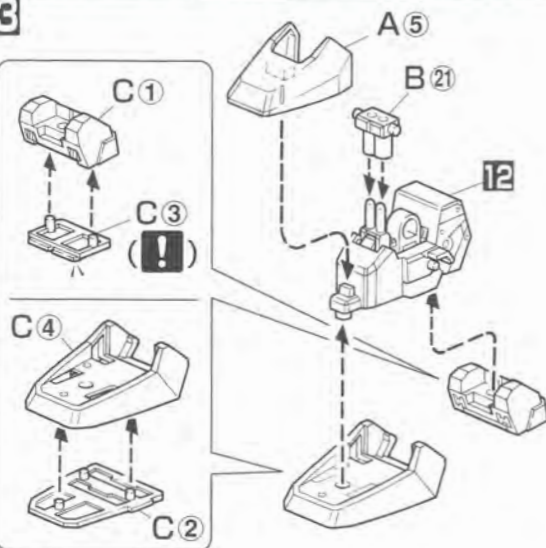


においてMSを運用する際に試みられたシミュレーションに基づいて提案された仕様のひとつであった。実戦投入が始まったばかりの新兵器の整備部品が潤沢に用意できるわけも無く、予備パーツなどが不足するであろうことは、陸戦部隊にとっては予測可能なことであった。この程度のこととは、砂塵や動植物の繁殖する熱帯、亜熱帯気候の戦線に投入される機械化部隊には常識であったのだ。理想を言えば、ブロックごと交換できればいいのだが、現実問題としてそんな余裕はなかったのである。それでも、MSは「腕」がなければ何の役にも立たないと言っても過言ではない。実際、汎用ミニビュレーターとしてのMSの腕は必要不可欠な部位であり、各種武装のプラットフォームとして、あるいはほぼ万能の重機として、その機能を存分に発揮していたのである。

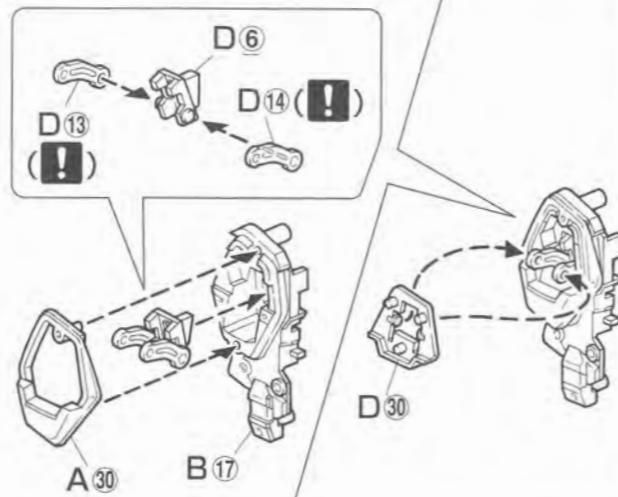
いわゆる先行試作/量産型であるRX-79(G)陸戦型ガンダムおよびRGM-79(G)陸戦型ジムは、可能な限り各部のユニットを細分化し、損耗の激しいことが予想される部位は、現地での修繕が可能ないように設計変更されている。これは、地球環境

Mechanism illustration : BEE-CRAFT

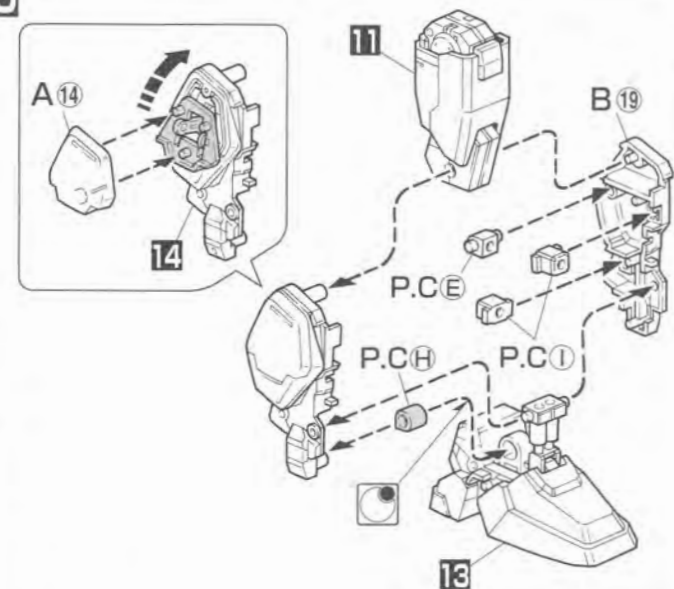
13



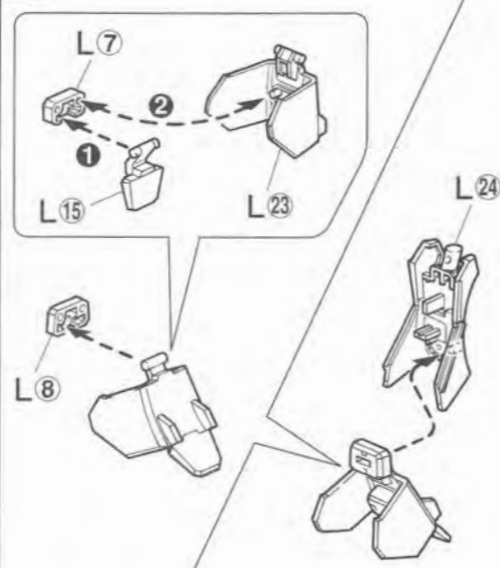
14



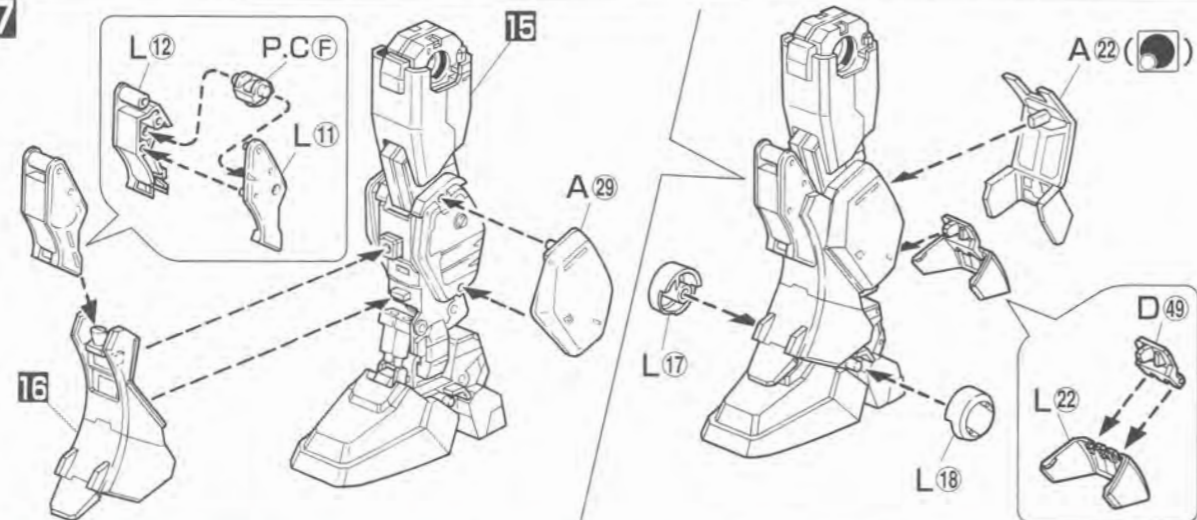
15



16



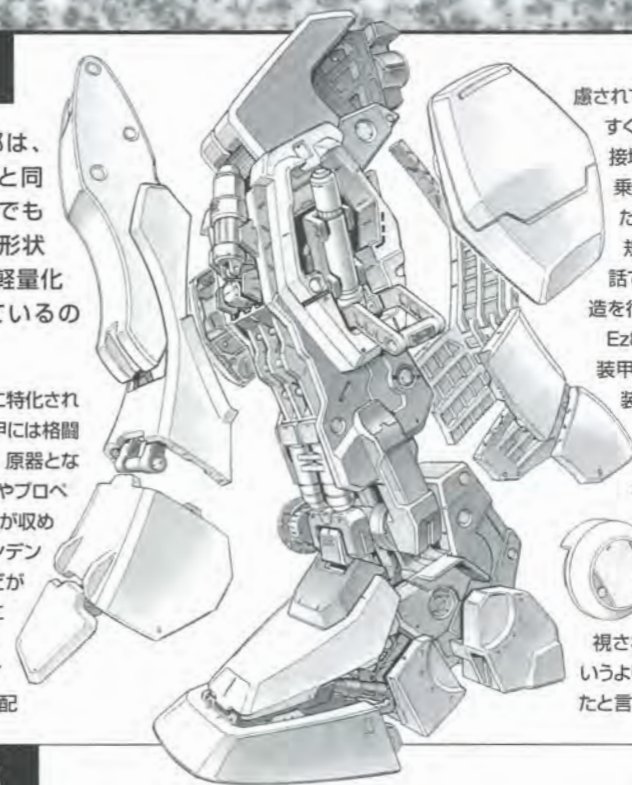
17



LEG UNIT

地上においてMSの脚部は、特に重要なユニットであると同時に、最も酷使される部位でもある。Ez8は、最終装甲の形状を変更することで、機体の軽量化と整備部品の不足を補っているのである。

RX-79(G)の脚部には、地上用に特化された特徴が集約されている。膝部装甲には格闘戦に対応したスパイクが追加され、原器となったRX-78ではコジェネレーターやプロベラントタンク、バーニアユニットなどが収められていた下腿部には、大容量コンデンサーやビーム・サーベルラックなどが収められ、構造そのものが高密度にまとめられている。加えて、塵埃の混入しにくい構造が採用され、メンテナンスも少数で可能なように配



慮されている。実際、最も衝撃を受けやすく、金属疲労を起こしやすい足部接地面などのオーバーホールは、搭乗者単独でもある程度可能であったとされている。ただし、それは正規の部品が適正に使用できればの話であって、状況によっては改装や改造を行わなければならない。

Ez8は、主に足部の関節を保護する装甲が取り除かれ、脚部前面の最終装甲がオリジナルの79(G)とは大きく異なっている。これは、部品調達に都合というよりは、構造を単純にすることで“くるぶし”部分にかかる負担を軽減し、かつ、軽量化を達成している。特に、膝部分のスパイクアーマーの有効性は当初より疑問視されていたこともあり、窮余の策というよりは、むしろ積極的な改造であったと言われている。

WEAPONS

NF・GMG-Type.37/100mm
X.B.Sa-G-03
NFHI・EPHB-type.Doc-04/380mm
P.B.R-0079/A12 S-0000204
RGM・S-Sh-WF/S-00116・Ap-A

連邦軍が開発したビーム兵器は圧倒的なアドバンテージではあったが、その稼働条件や調達などにおいて問題を抱えていたことは否定できない。特に地上では、大気によってビームの威力が減衰するなど、思わぬ障害もあった。

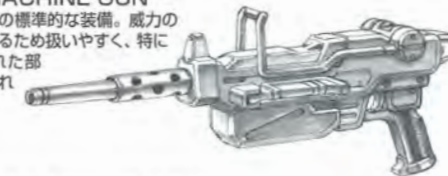
BEAM RIFLE

実体弾を凌駕する威力をもつが、実用化直後であるため実戦部隊への配備は遅れており、定数を満たせず貴重な装備となっている。



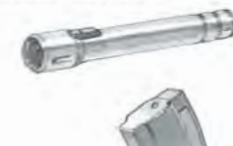
100mm MACHINE GUN

連邦軍のMSの標準的な装備。威力の割りに小型であるため扱いやすく、特に地上に配備された部隊に多く支給されている。



BEAM SABER

RX-78や通常型のGMとは異なり、脚部に装備されている。連邦製MSの一般的な兵器。



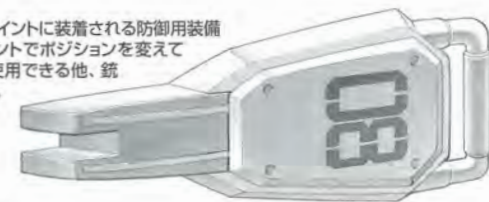
Hyper Bazooka (Ground Type)

RX-78用に開発されたハイパー・バズーカを地上用に仕様変更した大型兵器。大気中での直進性を向上させるため、有翼式の砲弾を使用する。



SHIELD

腕部のハードポイントに装着される防御用装備だが、可動ジョイントでポジションを変えて近接戦闘用にも使用できる他、銃架としても使える。



PILOT

SHIROH AMADA 「シロー・アマダ」

連邦軍少尉。サイド2の士官学校卒業と同時に戦闘に参加。以後地球に転属となり、コジマ大隊第08MS小隊隊長となる。地球に向かう途中、公国軍パイロット、アイナ・サハリンと出会い、敵味方を越えた絆を育むが、そのせいで軍の上層部からスパイ容疑をかけられ、自らの任務と理想の狭間で苦しむこととなる。それでも、自らの理想とアイナへの想いを遂げるべく、生まれ変わった愛機Ez8を駆って一年戦争を戦い抜く。





FRONT LINE

アプサラスの開発拠点である敵基地の所在地を特定するため、第08小隊は降下作戦を展開する。降下中に接触したガウをやり過ごし、予定ポイントに着地したカレン機とエレダアらの乗るホバートラック。ところがその目前に、水陸両用MSのアッグイが出現し、襲いかかってきた。不意を突かれたカレン機は頭部を破壊されてしまうものの、ホバートラックとの連携でどうにかアッグイを撃破する。その後、合流したシローは作戦を変更。カレン機とホバートラックを合流地点に向わせ、シローはサンダースと二人だけで敵基地の捜索を続ける。

SHOWDOWN

敵基地を発見したゴジマ大隊は大規模な空襲を展開するが、内部に至る坑道をなかなか発見できずにいた。一方、基地の麓の市街地からの砲撃と市街戦を展開していた第08小隊の前に、味方の脱出路を確保すべく、ノリス・バックカードの駆るグフカスタムが出現する。町並や建物を利用してサンダースやカレンを手玉にするグフ。「こいつは……撃墜王(エース)だ!!」サンダースの叫びを聞き、自分たちの不利を直感したシローは、隊の指揮をエレダアに任せ、グフに踊りかかる。「はっ、楽しませてくれる」。身を挺して果敢に戦うシローを前に、ノリスは心を決める。「アイナ様、自分は死に場所を見つけました!」



APSARAS

陰惨な応酬の果てにアプサラスは沈黙した。事態の決着を確信した方面軍司令のライアー大佐は、度重なる命令違反に加え、敵兵士アイナと通じるシローを「処分」すべく、Ez8の狙撃を命じる。一旦は沈黙したアプサラスだったが、ギニアスの執念に応えるかのように、再び動き出そうとしていた。「俺たちの手で決着をつけよう」シローはすでに軍人であることを捨てていた。アイナもまた、ギニアスの妹であることをやめていた。ふたりは、自分たちの運命を自らの手で切り拓くべく、共に手を携えてEz8に乗り込む。そして……

MARKING

WEAPONS

Pilot SHIROH AMADA



PAINTING

※よりリアルに仕上げたい場合は、下の基本色をご確認ください。
※塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
●このキットをよりリアルに塗装したい方は、(株)GSIクレオスより発売のガンダムカラー(HG「ガンダムイジーエイト」用、その他カラーセット)をお使いください。
●ABS樹脂部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はおすすめできません。

- 本体などの塗装色。ホワイト(80%)+イエロー(10%)
+ブラウン(5%)+ブラック(5%) ※またはガンダムカラー ホワイト6
- 胸部、足部などの塗装色。インディブルー(70%)
+ディナークリーン(30%) ※またはガンダムカラー ブルー13
- 腹部、バックパックなどの塗装色。ミッドナイトブルー(60%)
+ブルー(40%)+ミディアムブルー少量 ※またはガンダムカラー グレー7
- 関節部などの塗装色。
ニュートラルグレー(60%)+ミッドナイトブルー(40%)+パープル少量
- 武器の塗装色。
ミディアムブルー(60%)+ニュートラルグレー(30%)+ミッドナイトブルー(10%)
- シールド、ビームライフル白部などの塗装色。
ホワイト(100%)+パープル少量+ブラック少量
- シールド、背部などの塗装色。
ブルー(60%)+インディブルー(40%)+レッド少量
- アゴ、アンテナ先端などの塗装色。
シャインレッド(100%)
- 目、センサーなどの塗装色。
オレンジ(100%)



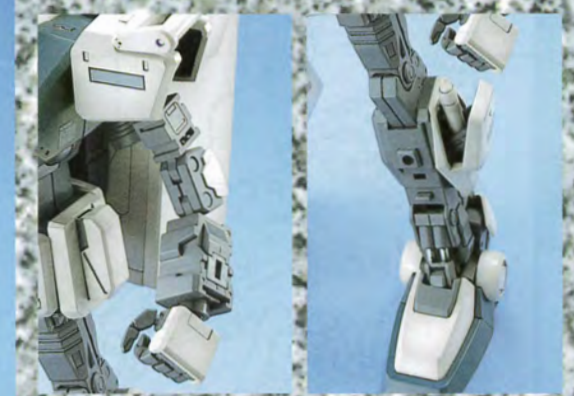
FRONT VIEW



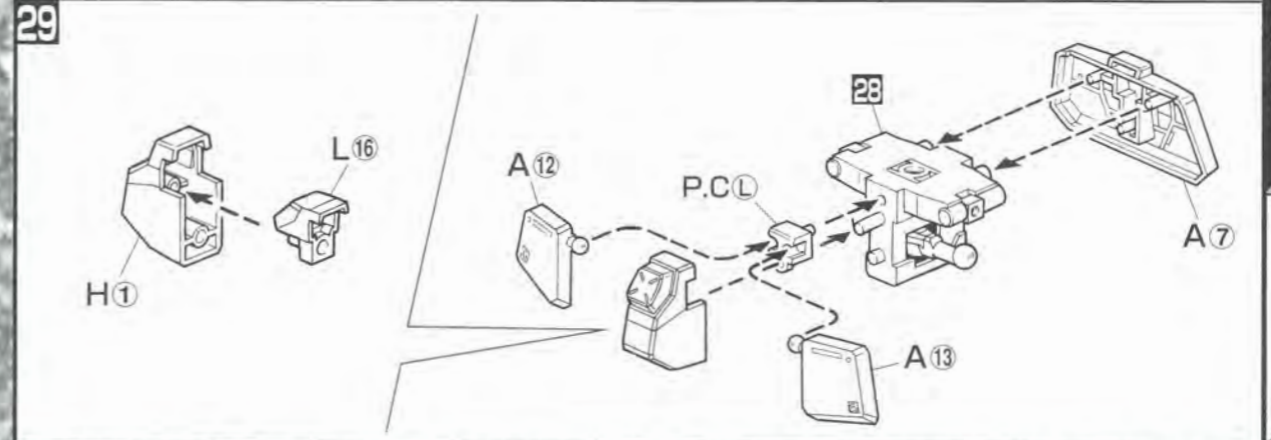
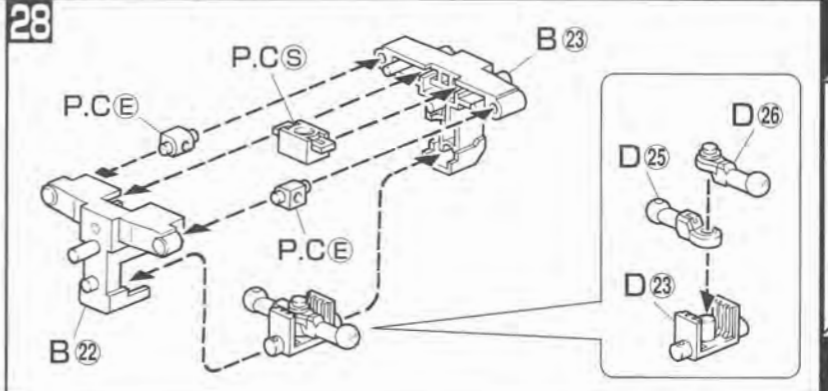
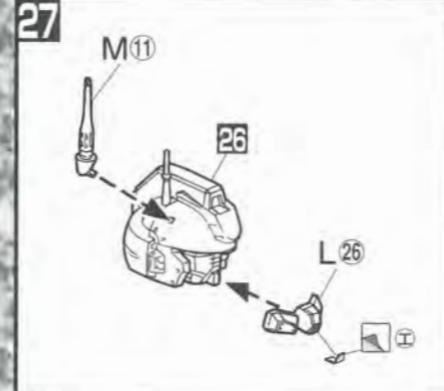
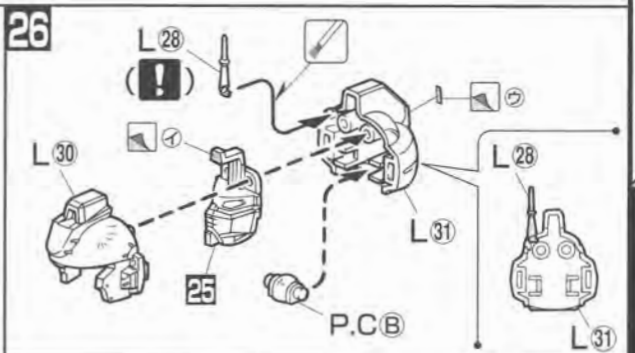
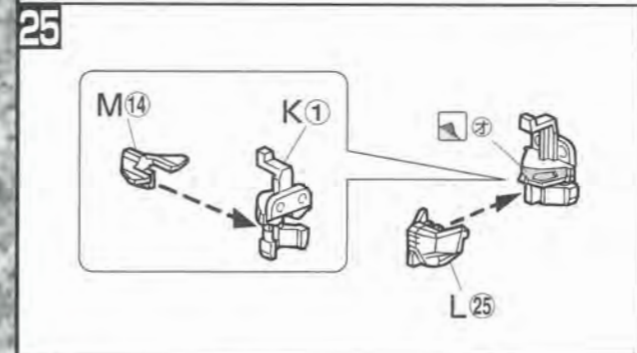
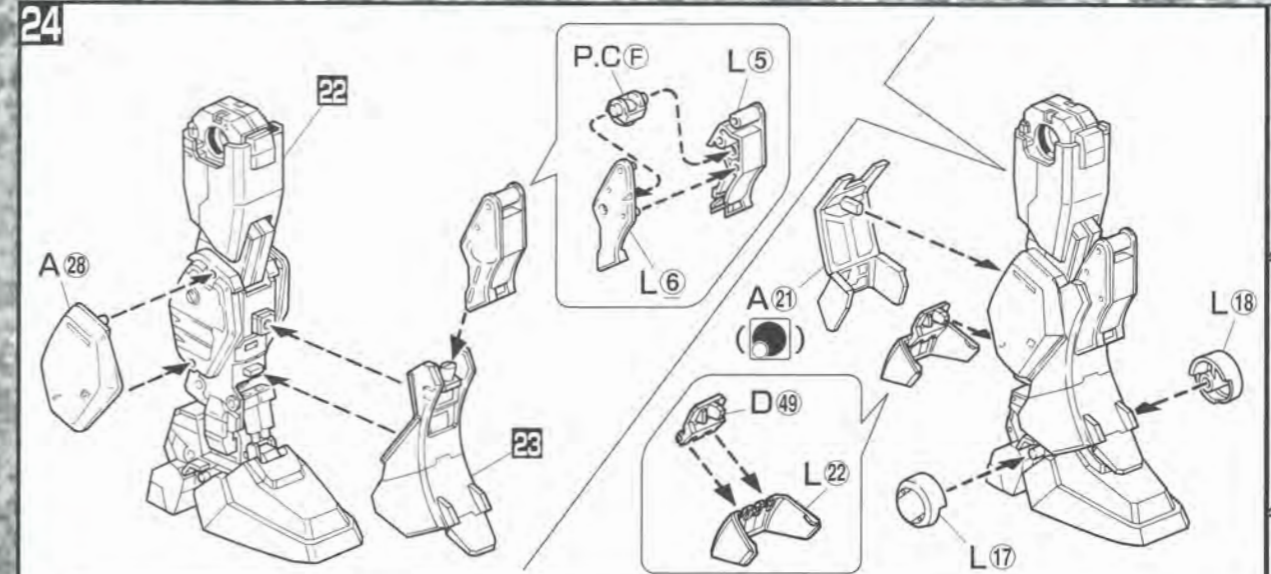
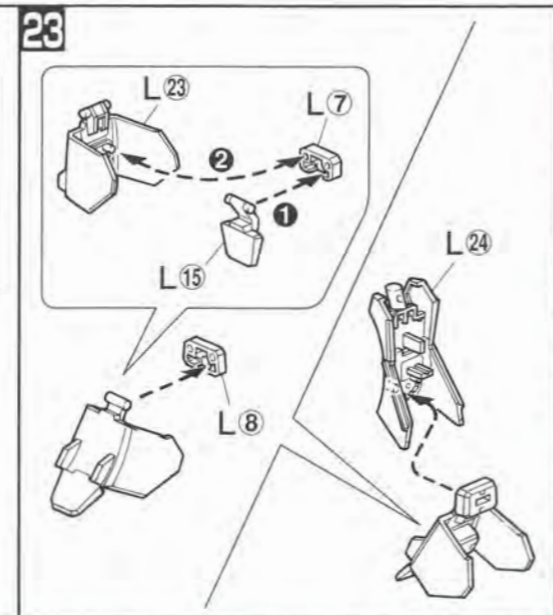
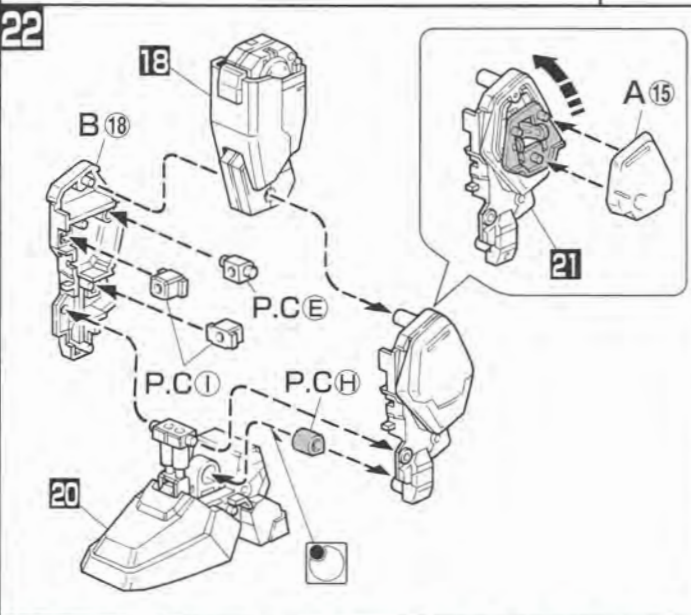
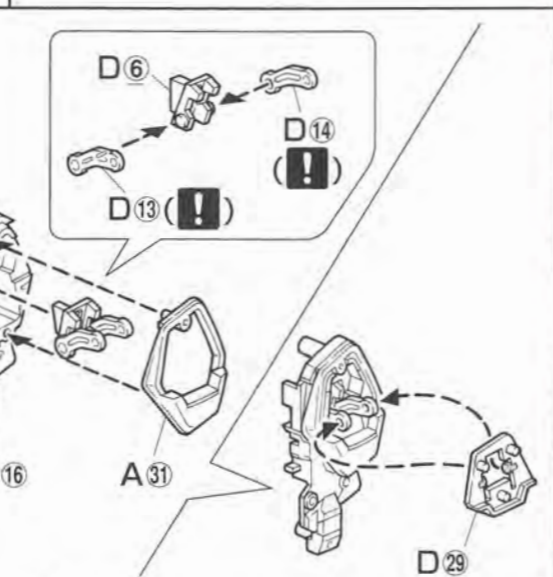
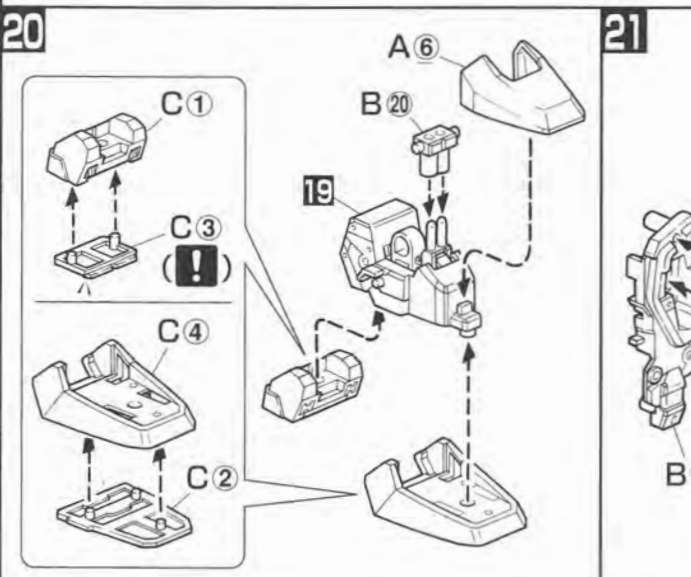
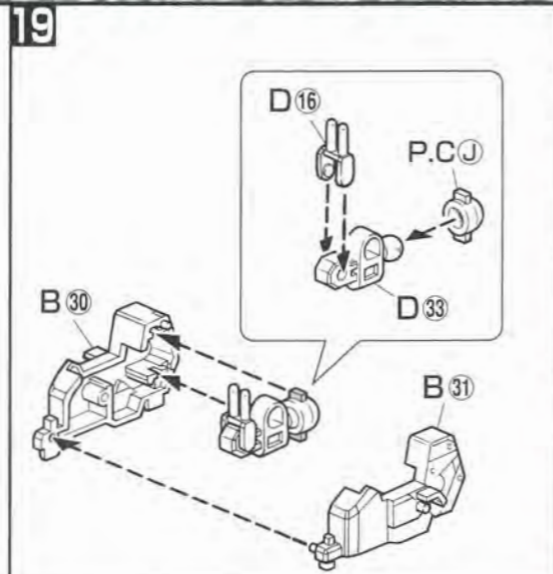
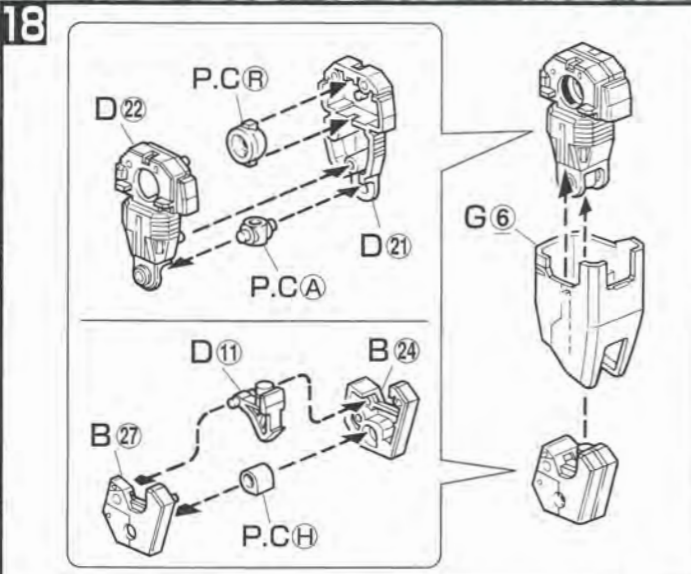
REAR VIEW

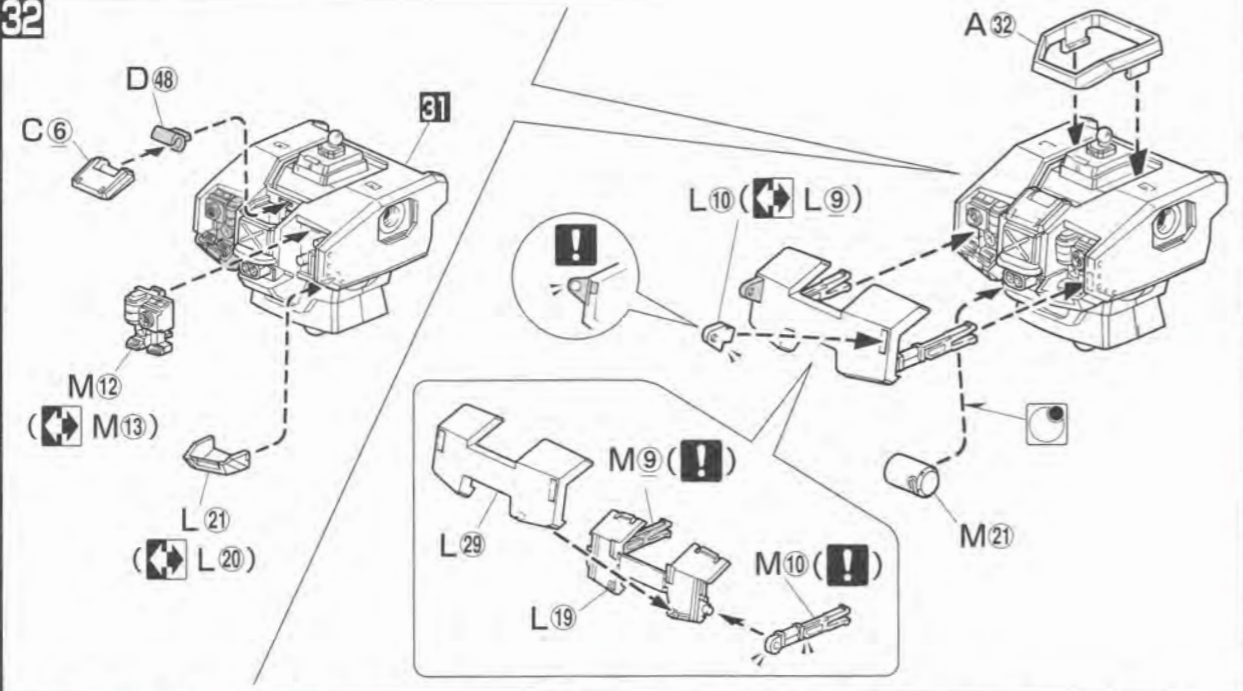
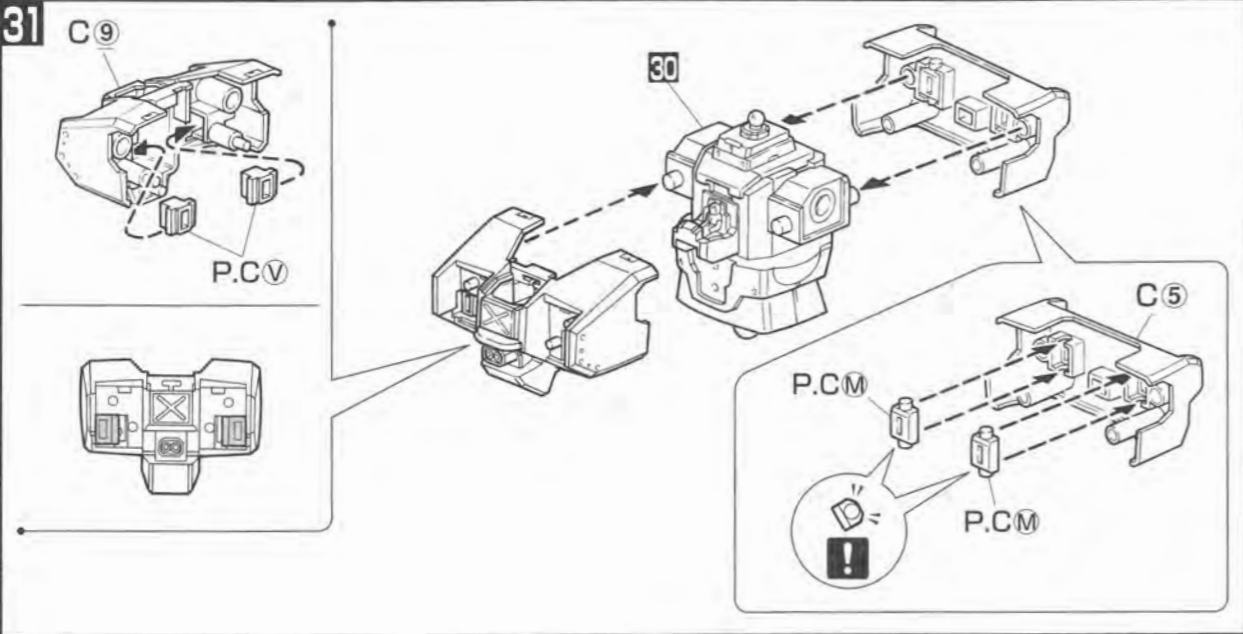
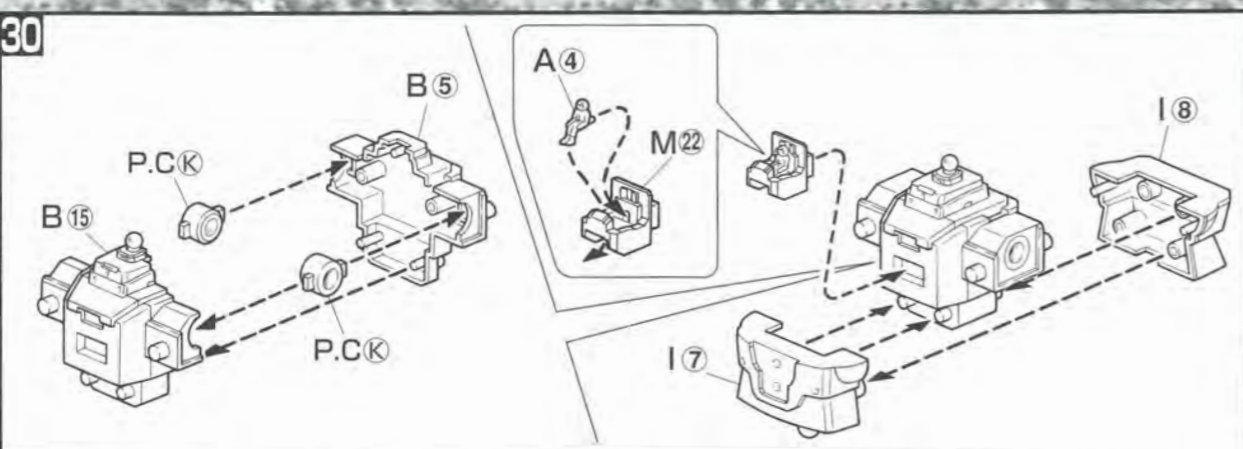
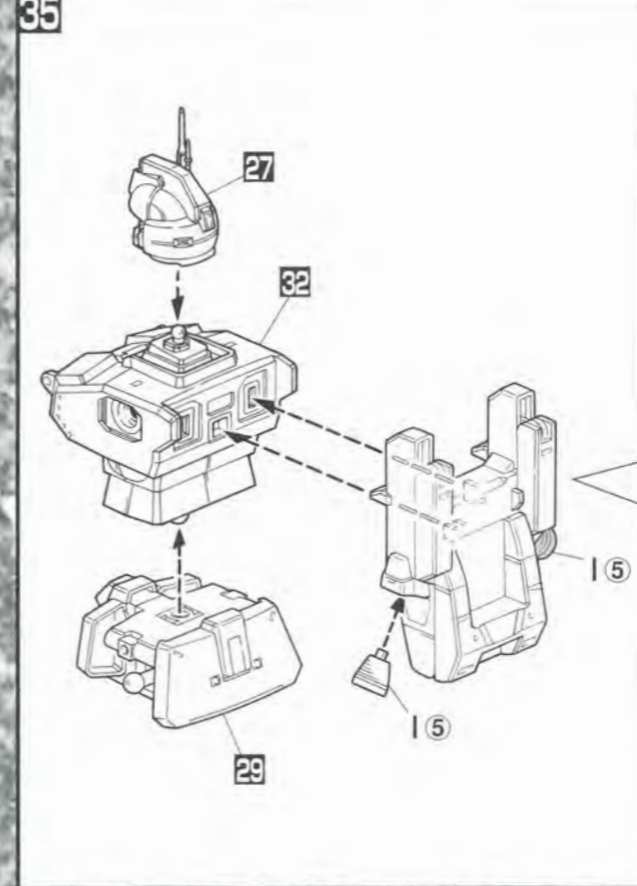
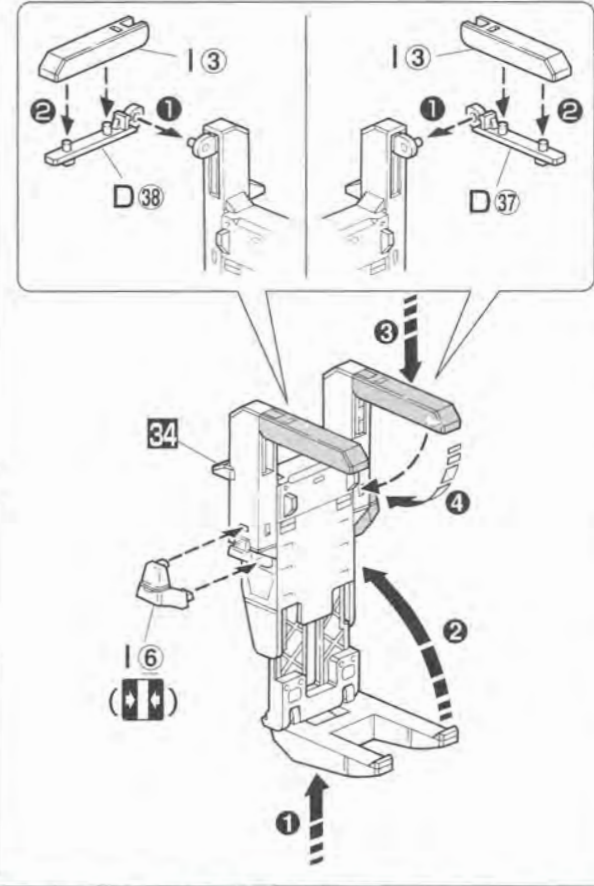
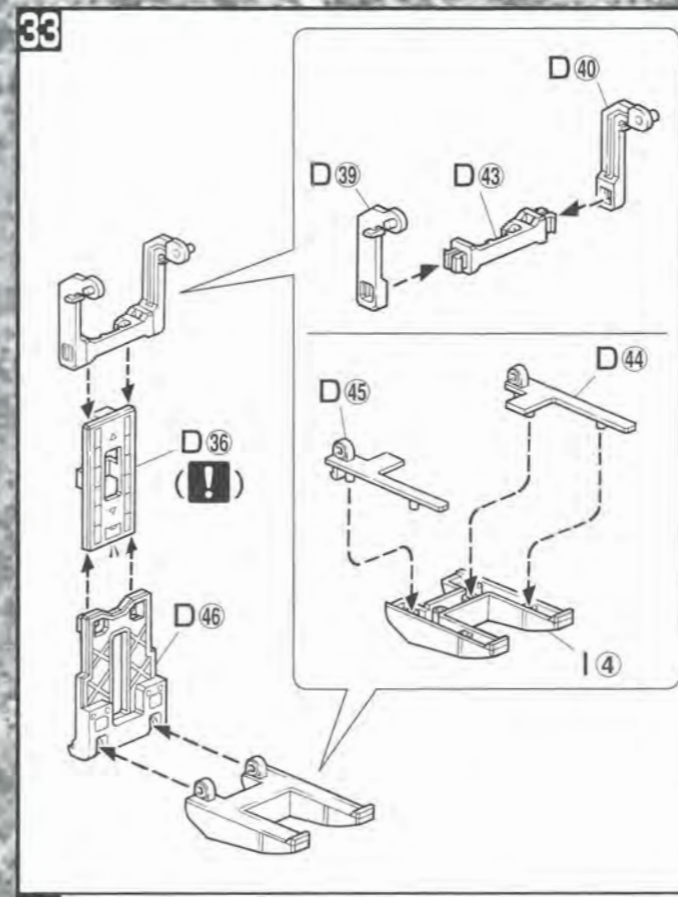
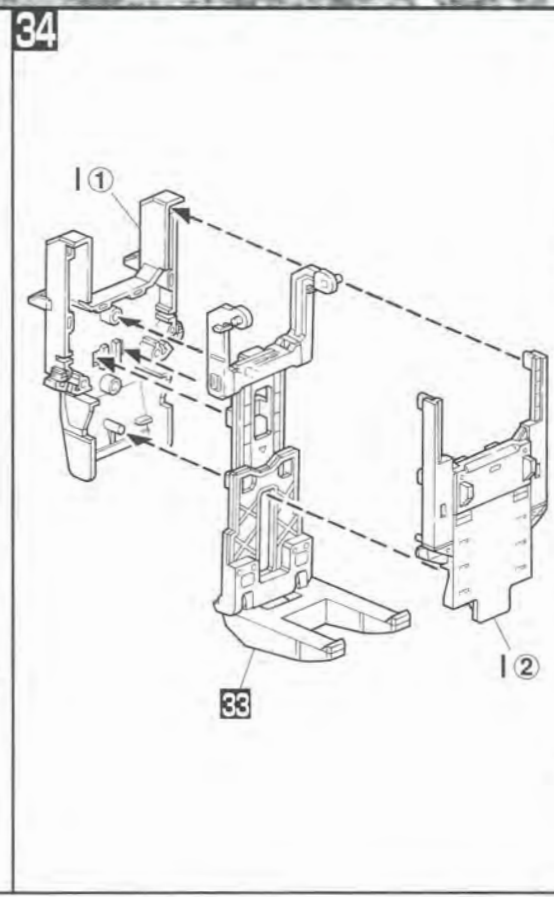


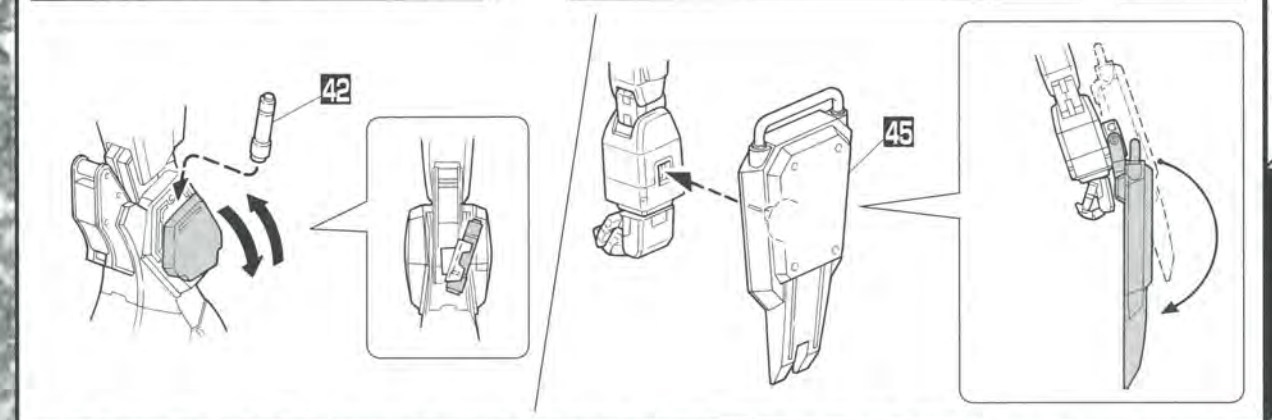
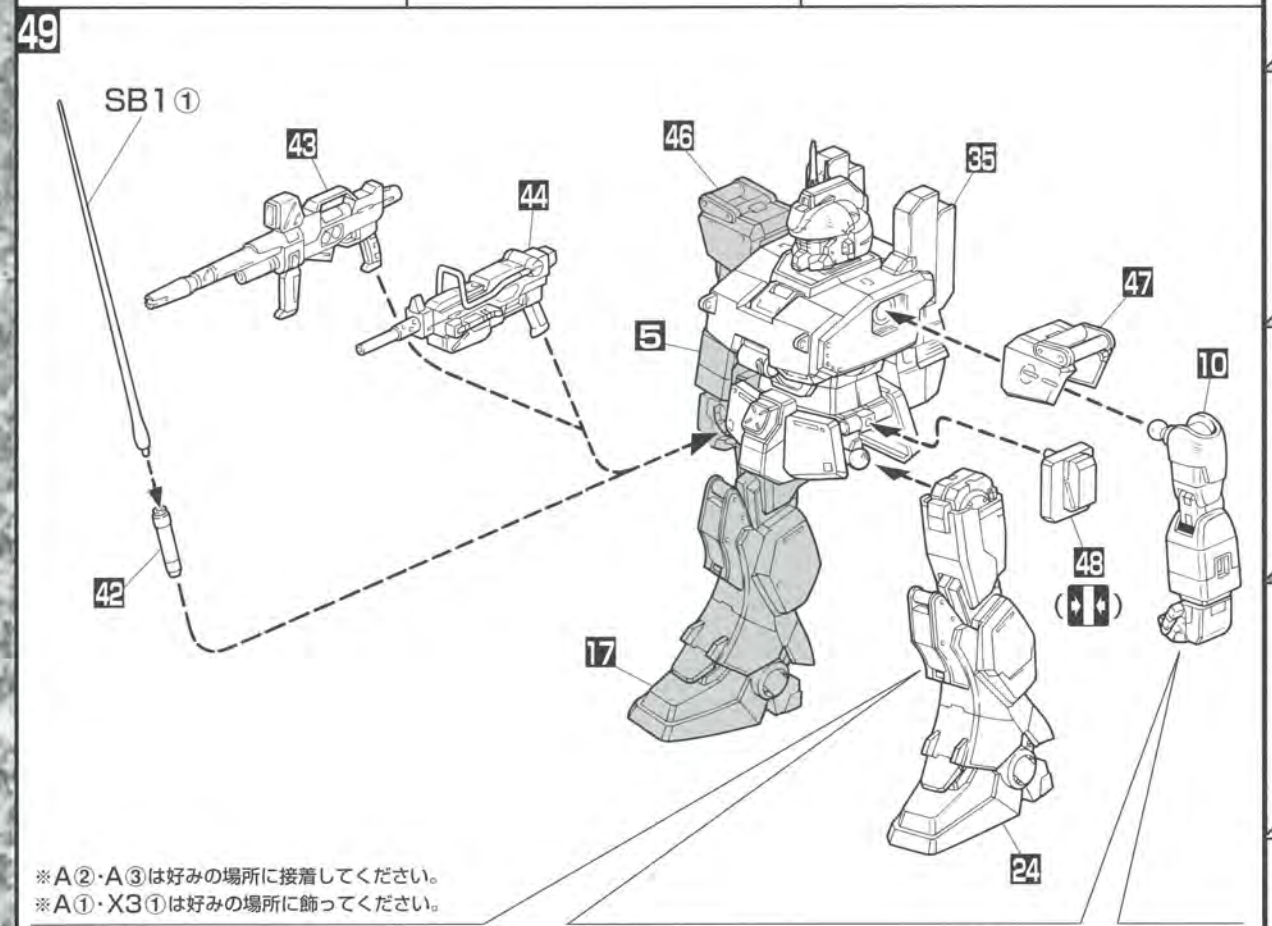
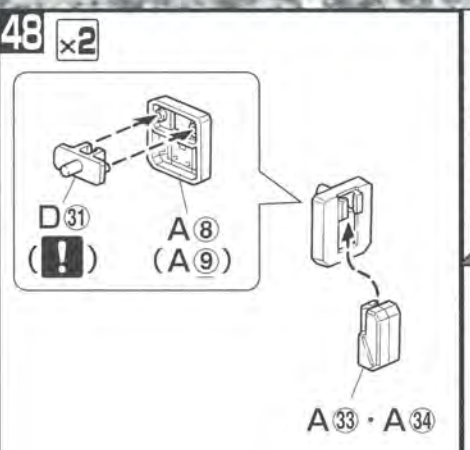
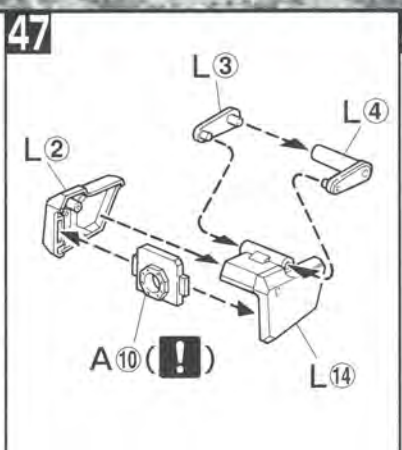
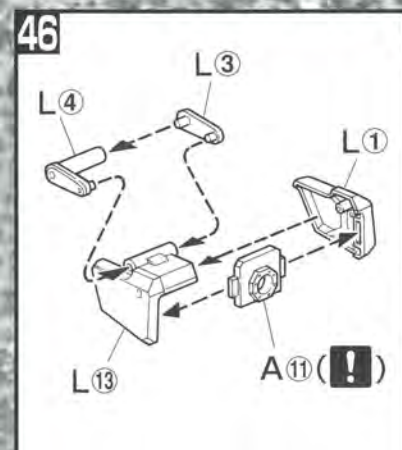
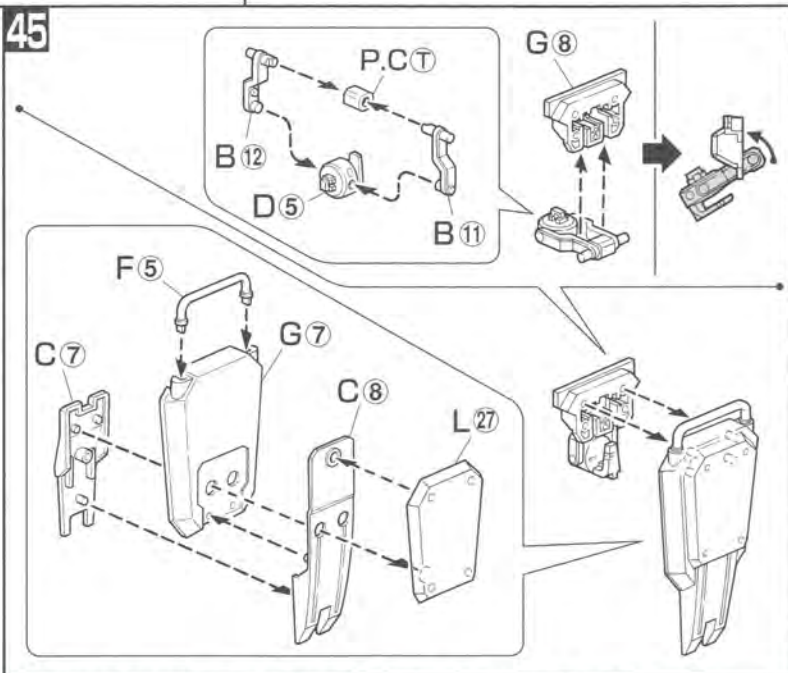
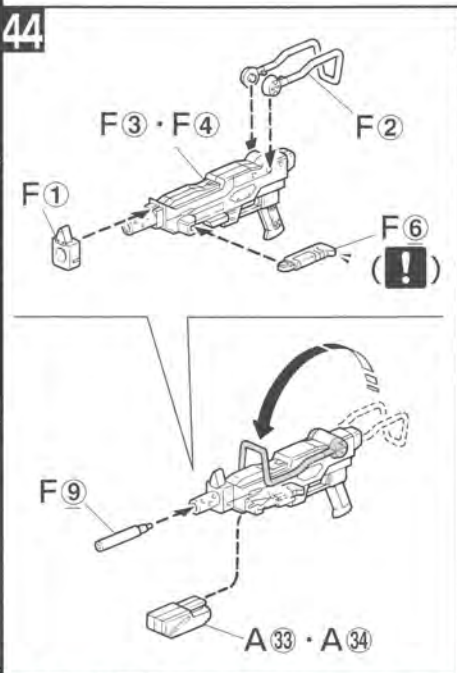
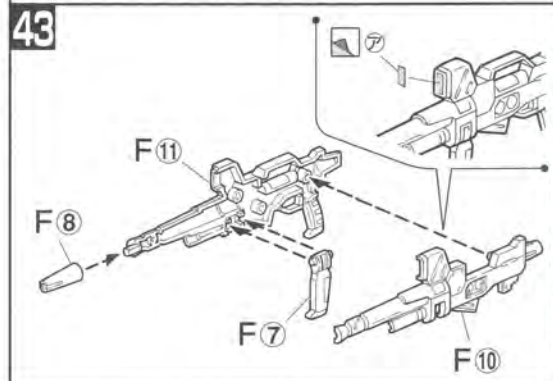
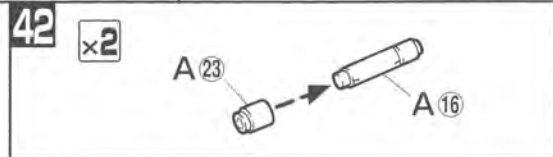
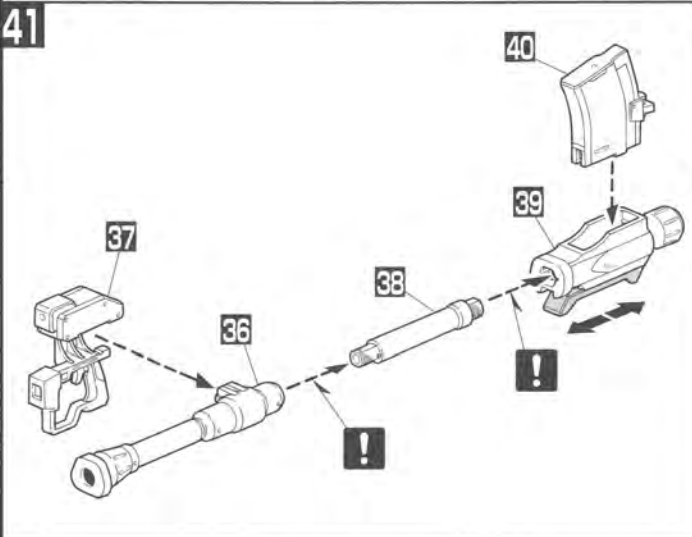
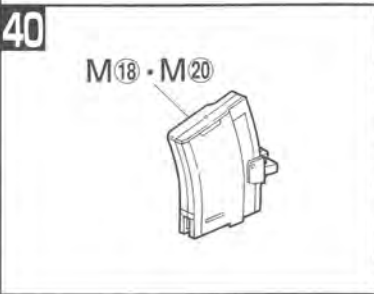
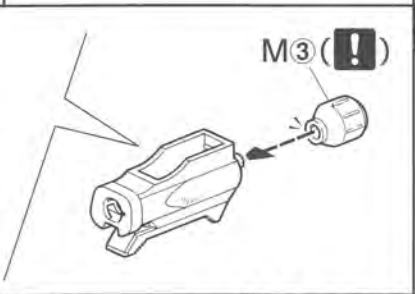
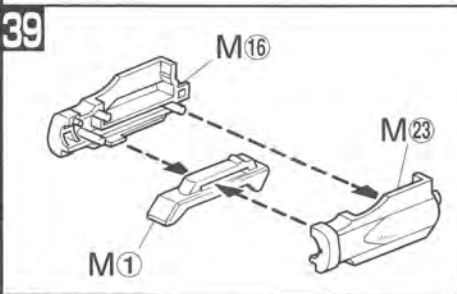
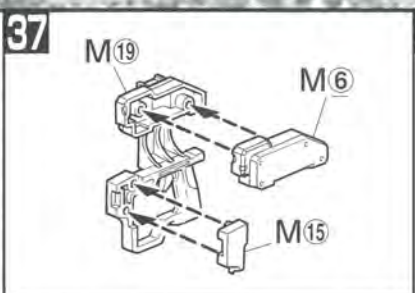
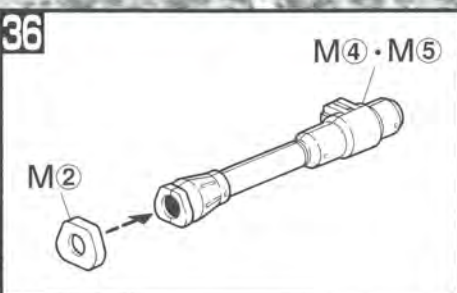
▲背部バックパックは、クレーンの可動によりコンテナの着脱が可能。

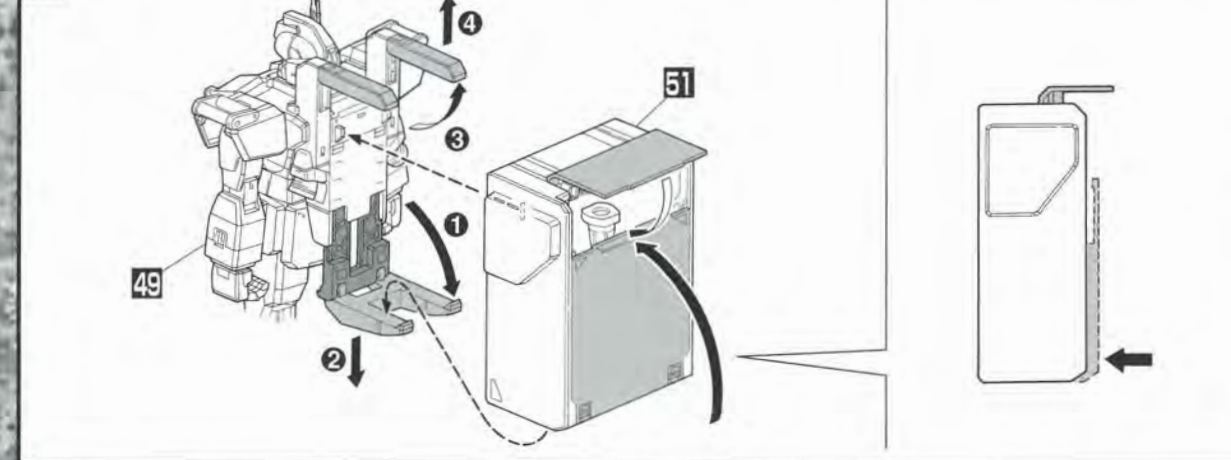
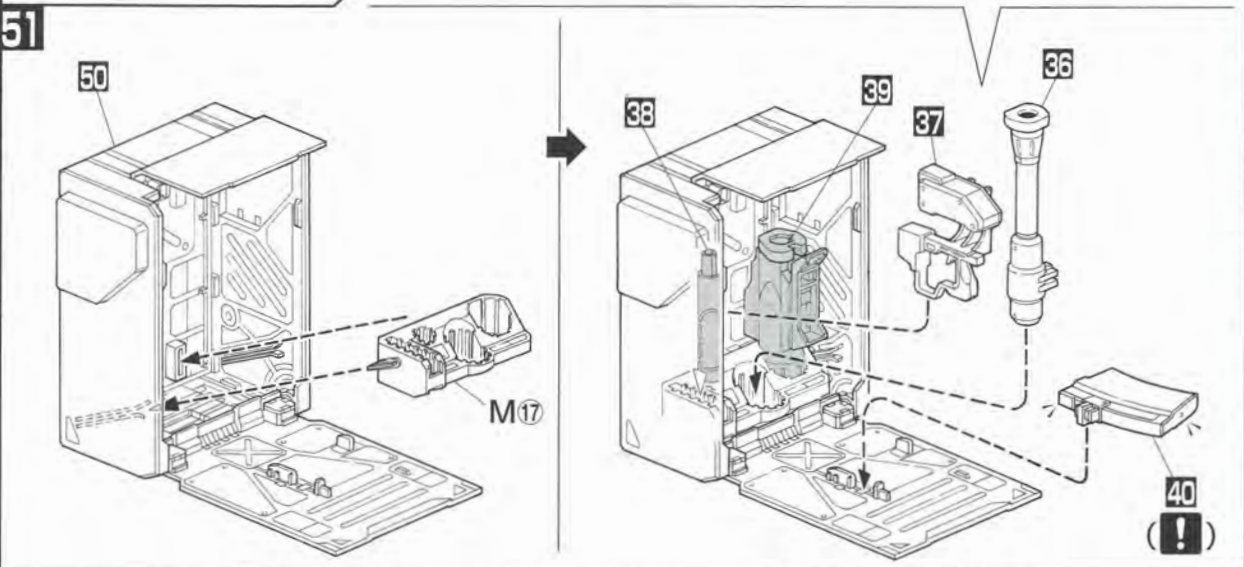
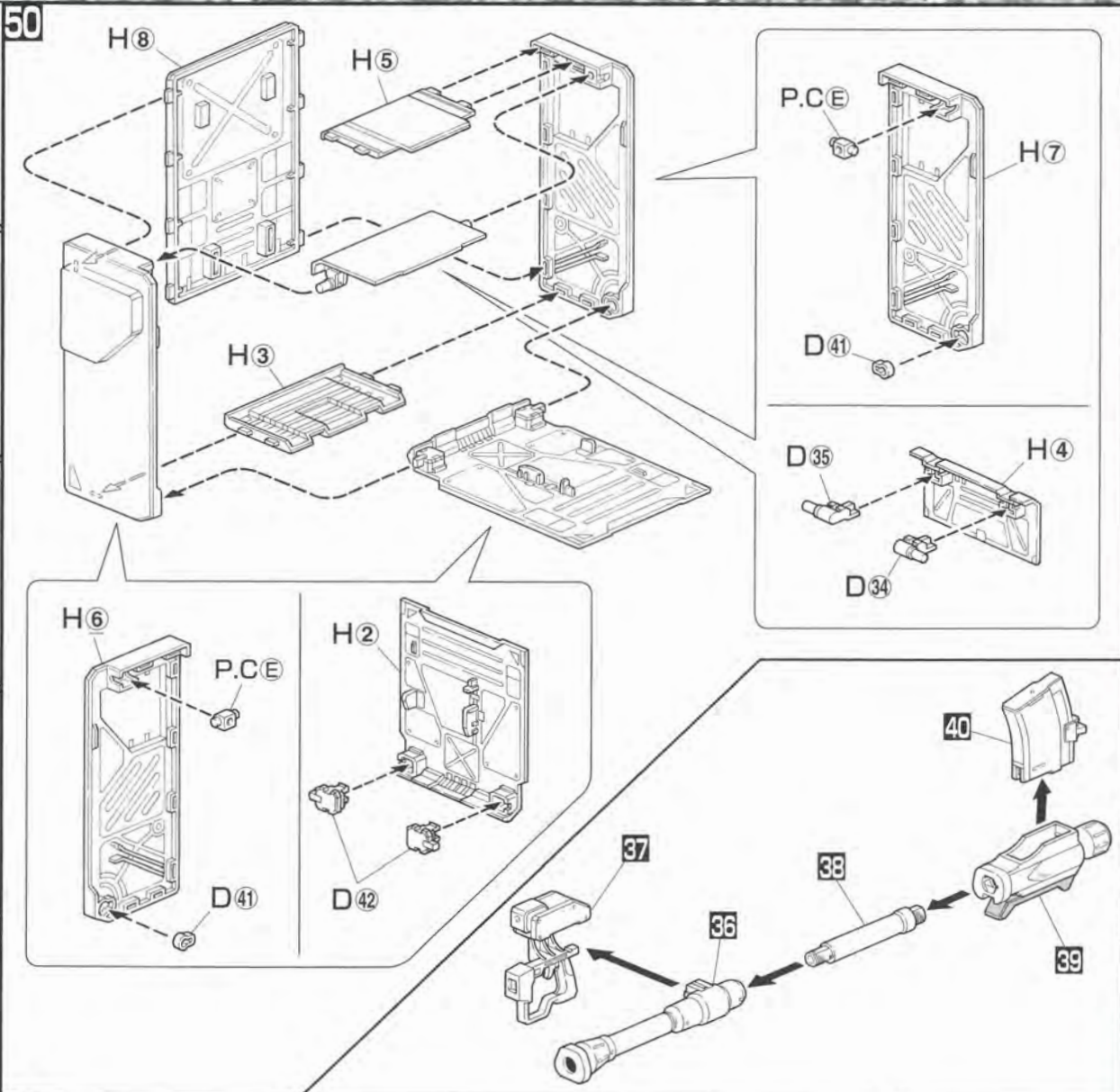


▲腕部、脚部の装甲は、脱着可能。内部フレーム、メカニックを精密に表現。脚部側面には、開閉式のサーベルラックを再現。

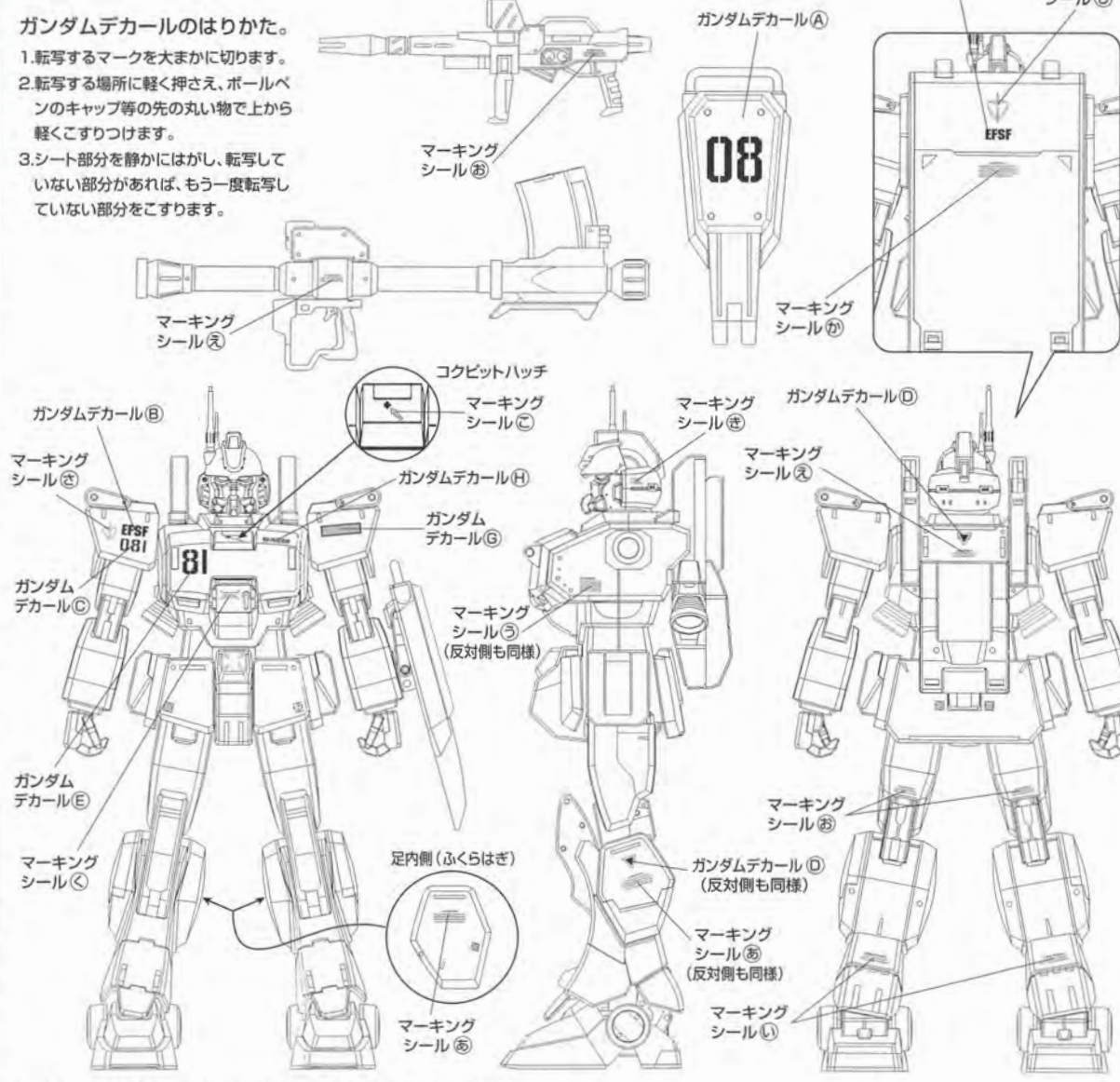








Seal 下の図を見て、ガンダムデカールやシールのはる位置を確認してください。
(シール)



※余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所にはってください。